

思ひがけないこよひのやうすきかしやんしたらはらがた

さぞにくからぶ去ながらそりや聞へません才三さま

おまへとわたしが其中はきのぶやけふの事かいな

屋しきにつとめたその内にぶつと見そめて

はづかしい恋のいろはをたもとからそつと私が

心では天じん様へぐわんかけて

梅を

しやうたつたぞへ

其おかげやらうれしいへんじ

二世も三世もさきのよかけて

ちかひし中じやないかいな

こよひの事をしらせまし

といだんがうもしやうものとまち

かねてゐるものをめんまりむしこころ

よくじやたゞいはらがあゐるならばこころ

まかせにしたうへでもう

かんにんをしてやると

いふてたんのぶさせてたべ

そふいふ事で有ふ

とはおれも思ふ

てゐたれども

今夜むし

がくると

聞てはら

の立たも

そなたが

かはいさ我

とても比やうにすがたをやつし

くらうをするもふんじつの

茶入を尋出したい斗と

いふてサどこを尋るあてども

なしそれ故にそこゝと所をかへる

町髪結何から何迄そなたのせは

しんじつなきは知てゐる

かんにん

してたも　　うれしやそん

ならうたかひはれ

たかへ